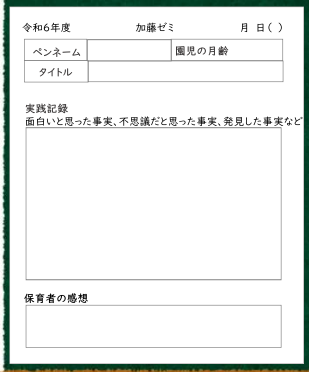
令和６年度　幼児教育研修（資質向上　加藤ゼミ）
「記録のとり方」

日時：第１回　令和６年　７月２４日（水）会場：足立区勤労福祉会館
日時：第２回　令和６年　９月１２日（木）会場：梅田地域学習センター
日時：第３回　令和６年１０月２９日（火）会場：梅田地域学習センター
日時：第４回　令和６年１２月１９日（木）会場：梅田地域学習センター

講師：山梨大学　　名誉教授　加藤　繁美　氏

加藤ゼミでは、実践記録を持ち寄り議論しながら、保育の真実を見出していくことを学びました。

実践記録に書く内容



令和6年度　　加藤ゼミ　　月　日（　）

ペンネーム		園児の月齢	
タイトル			

実践記録
面白いと思った事実、不思議だと思った事実、発見した事実など

保育者の感想

＊その日の保育において、**面白いと思った事実、不思議だと思った事実、発見した事実**
事実とは、子どもしぐさ、行動、言葉　＋　保育者の行動、言葉
記録に載せた園児の月齢を書く

＊**一行タイトル**
書いた記録にタイトルをつける。実践の意味づけ（理論化）が可能になる。

＊保育者の**率直な感想**
ここで下手に考察をしないことが重要。保育は一話完結ではない。
課題を明日に記録が、子どもと対話する余地を広げる。

実践記録は、無意識の保育観を映し出す鏡である。
無意識の世界は、自分の当たり前の世界なので、自分にとっては違和感がない世界である。

⇩

自分とは違う別の人の思いや考えを挟むことで、**自分自身の無意識にやってる保育実践の意味に気付く**ことができる。
あるいは、他の人の実践記録を読み、批評しているうちに、**自分自身が無意識にもっている保育観（保育の理想）に気付く**ことができるようになる。

⇩

保育の中で大事にしなくてはいけないものは、何なのかを探ることがこのゼミの意味でもあり、そのためには、率直な話し合いがカギになります。

保育者の専門性を構成する2つの要素
～保育観【専門性の二重構造】～

本で学んだ言葉の知識のことをいう。

保育の理論学習を通して形成された
「概念的知性」

勘やコツといった身体的能力のことをいう。

経験によって**身体的**に形成された
「直感的応答力」

保育思想・保育理論
発達・教育理論
生かされた理論

身体化した理論
教育経験の履歴
生活経験の履歴

分析

実践記録

子どもの要求

保育実践

分析をしてもストンとおちないことがある。１人の保育者が書いた記録を「こう考えたらスッキリと整理できるのではないか？そう分かった時にこの空白の部分が、今まで使うことのなかった理論が活かされた理論になり、明日から使える身体化した理論になる。

□を豊かにもつことが、保育の質を高めていくことになる。
ゼミの大きな主旨である。

実践記録　『お医者さんを頑張った後は、、、？』（3歳3カ月）

保育室で、K、A、R、Sがお医者さんごっこを行っていた。
ブロックやままごとの玩具を道具に見立てて、順番に診察をしていた。

R　「次のお客さんどうぞ」
S　**「（膝を指しながら）ここが痛くて」**
A　「ここどうぞ」（長椅子をベッドに見立てて寝転んでもらう）
　　診察を終えると、、、
R　「おしまいです」と終わりを告げると、K、Aが突然もめ始める。
A　（平らなブロックを持って）「最後はシールをあげるの！」
K　「違うよ。（ジュースの玩具を持って）これだよ。」
　　しばらく様子をみていたが、お互いの主張が続いたので、保育者が声をかけた。
保　「どうしたの？」
A　**「お医者さん終わったらシールをもらえるんだよ。**Kちゃんが違うっていうの。」
K　**「頑張ったらお菓子だよ。」**
保　「そうなんだね。お医者さん頑張ったらプレゼントをもらえるんだ。どっちもうれしいね。Rくんはお医者さんになにもらった？」
R　「あめもらったよ」
保　「Sちゃんは？」
S　「シールもらった！」
保　「何をプレゼントしようか迷っちゃうね。」
A　**「じゃあいっぱいあげようか！」**
　　Kは、持っていたジュースをSに渡していた。
　　Rも小さいブロックを持ってきて「どうぞ！」とSに渡していた。

この記録を選出した理由は何ですか

見立て遊びのトラブルに保育者が入ったことで遊びが広がったと思ったから　推薦者

何か違和感を感じますか

？・・・あめ？　実践者

反省する点はありますか

Rくん、Sちゃんに聞いちゃったところ？　実践者

ごっこ遊びというのは、表象世界を作る

Sちゃんは、「（膝を指しながら）ここが痛くて」と整形外科？に来て、虚構の世界に入っている。
ところが、Aちゃん、Kちゃんは生活の中の経験から現実の世界でもらうご褒美でもめてしまった。
さらに、保育者がRくん、Sちゃんに現実の世界で何をもらったのかを聞いてしまった。
こうなると、虚構の世界には戻れなくなる。　ところが・・・

意味づけ

A **「じゃあいっぱいあげようか！」**
という
A君の枠発言によって、虚構の世界へと皆が戻ることができた！
これを、タイトルにしたほうがよい。

枠発言とセリフ発言の違い

枠発言…枠組みを整理することで、遊びを決めていく発言
セリフ発言…虚構の世界のやりとりが進んでいく発言

研修生の報告書より

第１回
事例を伝え合い、選んだ事例を評価して言葉で説明することは意外と難しく感じた。子どもの思いを深く読み取ることの難しさを感じるが、次につながる保育への展開などを学ぶことができ、さっそく気に留めた場面を記録して成長や発見を伝え合える保育をしていきたいと思った。

第２回
記録を書く上で、どの子に焦点をあてるか明確にすることが大事であり、そのためにはタイトルが重要になることを学んだ。子どもの変化が感じられた時、変わった後のことよりも、変わったきっかけになった場面を記録すると、何が育ちにつながったのかが、わかることを知った。

第３回
保育者が子どもの思いに共感しそれに適切に応えていたか、保育者の願いの返し方、自分の保育実践を振り返ることができるか、このような記録になるよう書くことが大切だと学んだ。また、仲間との関わりの中で個という視点をもって、プロセスを丁寧に書き留める重要さを知った。

第４回
実践記録の書き方やグループでの記録の読み取りの話し合いが変化してきたことを感じた。実践記録を書いた経験が保育に活かされること、書いた物を他の見方（違う視点）から伝えられることがお互いの学びになり、自分の保育を見直すことにつながったことを実感できた。